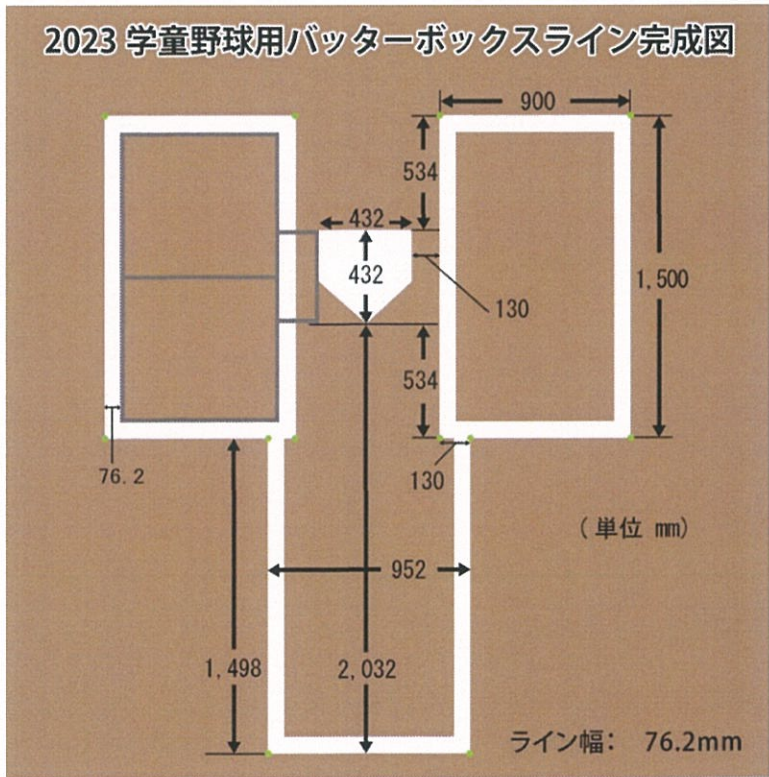
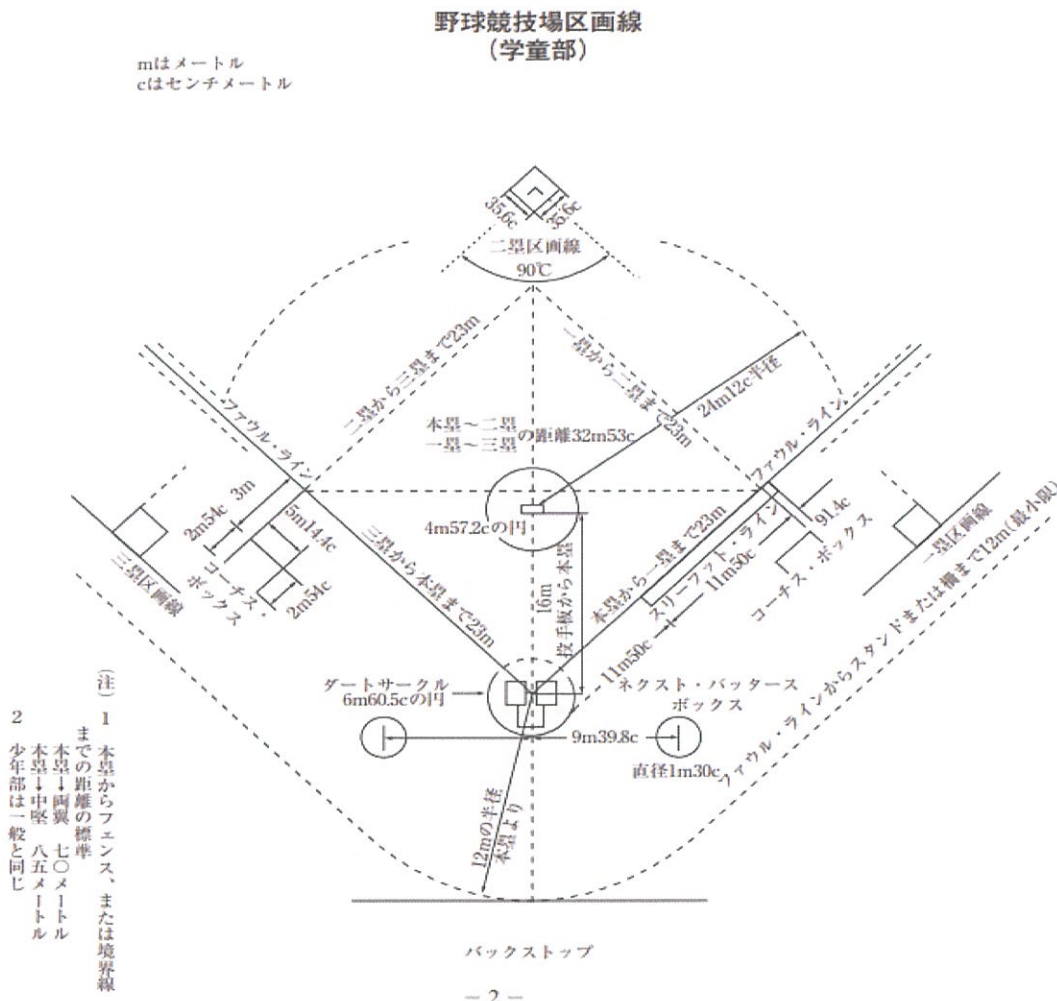


◆25面・26面（一般グラウンド⇒学童グラウンド） ライン引き



◎基本寸法

・白線幅(ライン)	7. 6cm(3インチ)	* ライン外側が寸法基準
・投手板(前)⇄ホームベース(基本点)	16m (低学年 14m)	
・塁間	23m (低学年 21m)	* セカンドベース中心が基準寸法
・バッターボックス	1. 50m × 0. 90m	
・スリーフィートライン	0. 90m × 12. 4m (91.4cm × 12.414m)	
・コーチャーボックス (塁線ラインより3m離れ)	5. 00m × 2. 50m (5,114m × 2.54m)	
・ネクストサークル	直径 1. 30m	

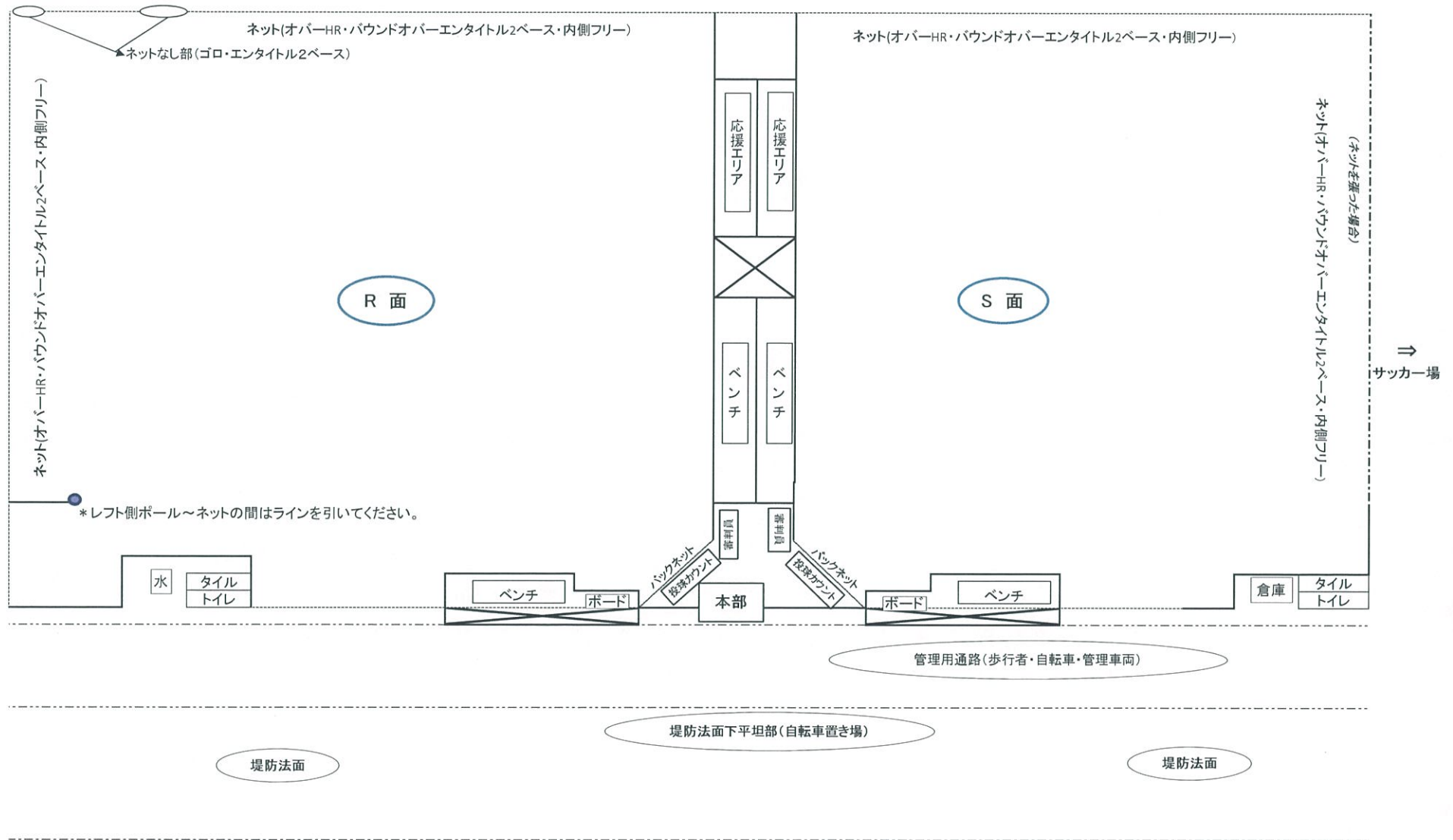
●ラインの弾き方(案) * 通常は、デットライン(ベンチ等)から一方向で順番にひく

1. 一塁線のデットライン (ベンチ等) を引く
2. 本塁を起点として一塁線のラインを引く
3. その時に一塁の23mとスリーフットラインの11.5mにマーキングしておく (23.914mスリーフィート終わり)
4. スリーフィートライン・一塁コーチャーボックスを引く
5. 本塁を起点として三塁線のラインを引く
6. その時に三塁の23mにラインを引く (三塁確定)
7. 一塁を起点として半径23mの弧を描いてマーキングする (二塁準備)
8. 三塁を起点として半径23mの弧を描いて交点をマーキングする (二塁確定)
9. 本塁と二塁の確定マーキングを結び投手板の位置を決める
10. 三塁コーチャーボックスを引く
11. 三塁線のデットライン (ベンチ等) を引く
12. バターボックス及びネクストサークル等を引く

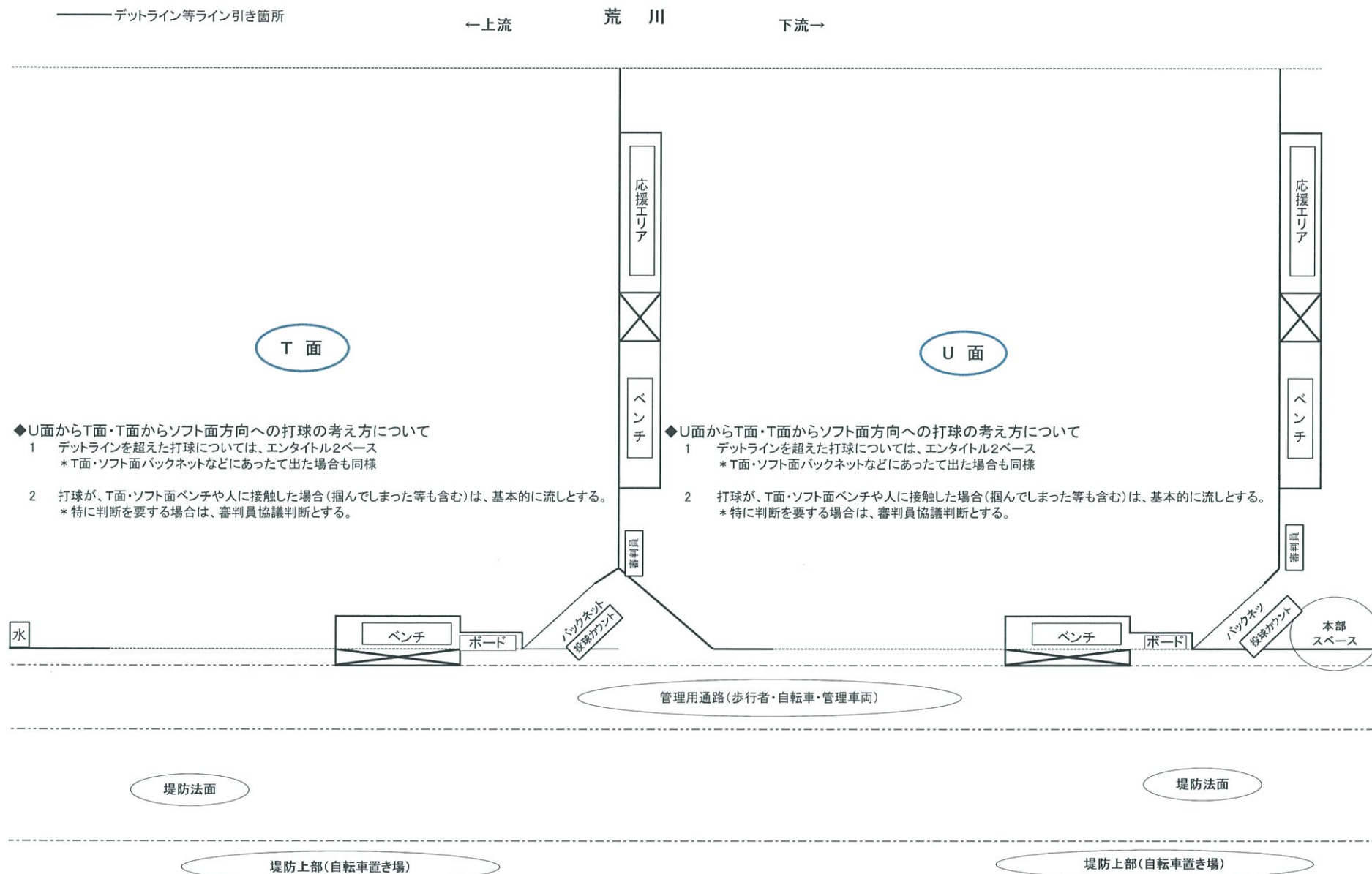
◆R・S面デットライン等ライン引き及び打球について

—— デットライン等ライン引き箇所

←上流 荒川 下流→



◆T・U面デットライン等ライン引き及び打球について



2024 公式記録員（旗揚）確認事項

1. リーグ戦旗揚げについて

(1) 審判部が基本的に実施する。なお、土曜日など審判員の不足する場合は理事も、旗揚げに参加する。

(2) ヒット・エラー等の判断基準は、下記に記載されている事項を参考として対応する。

2. ヒット・エラー等の判定基準の明確化について

(1) ライト方向への打球（ゴロ、ライナー）はセカンドのエラー判定以外、1塁がセーフになれば「ヒット」として記録する。

《ライト、ファーストのハンブル・エラーが絡んでも1塁まではエラーを記録しない。》

(2) ホームランについて、エラー（中継ミスも含む）が含まれるかを判断し、エラーがなければ「ホームラン」を記録する。

●【ヒット・エラーについて】

◎ 基本的に、打球と守備との位置・打球の強さ等の相対的な判断を行う。

(1) 基本的に、股間を抜けたもの（トンネル）は、「エラー」として記録する。

(2) 基本的に、グローブに収まりかけたものは、「エラー」として記録する。

* 打球が強烈な場合（強襲安打）とか、守備範囲ぎりぎりな場合は「ヒット」として記録する。

(3) 送球が通常であれば走者をアウトにできたと判断した場合は、「エラー」として記録する。

(4) バンドや緩い内野ゴロなどを、ジャッククルやはいいた場合に一塁でセーフとなった場合、

ジャッククルやはいいたなどの行為がなくても、ヒットとなると思われる打球には、「ヒット」を記録する。

(5) たとえば、ショートが処理すればアウトにできたかもしれない打球に対して、三塁手がカットを狙いぎりぎりですわって球速を弱めたり、プレー出来なかった場合には、「ヒット」を記録する。

* 参照（規則9. 05 (a) (2)【原注】）

(6) 打球を扱った野手が、先行走者をアウトにしようと試みたが成功せず、その打球に対して普通に守備しても1塁でアウトと出来なかったと判断した場合には「ヒット」を記録する。

* 参照（規則9. 05 (a) (6)）